



ドキュメンタリー映画

人と人、人と自然とを結ぶ

無縁社会、不安と混乱の時代

私達は何を手がかりとして生きていくのだろう——93歳の教育研究者・大田堯の挑戦



教育とは命と命のひびきあい 創造活動・アートなんです

監督：森康行 詩：「かすかな光へ」作・朗読 谷川俊太郎

ワンコイン上映会をしてみませんか？

学習会や研修会、個人グループなどへのDVD貸出料がお求めやすくなりました。
この機会に(#^_^#)と(#^_^#)の見える上映会をしてみませんか。

- ODVD 貸出料 お一人 500 円 (例：10人で鑑賞した場合、@500円×10人=5000円)
- 上映会の鑑賞料は自由設定です。
- 上映形態・規模は問いません。どこでも・どんな会でも上映できます。

お申し込み・お問い合わせ先 gyominuma@jcom.home.ne.jp 090-2425-9320

ドキュメンタリー映画

かすかな光へ



詩・朗読：谷川俊太郎／音楽：林光／ナレーション：山根基世

「学校の教師や子を持つ親、そのすべての人たちに見てほしい映画です」—山田洋次（映画監督）

時代の流れとともに、人、地域、社会…などのつながりが希薄になり、“きずな”の大切さが再考される中、そして3.11震災後には多くの方が生き方を見つめ直している今、戦前戦後を通して日本の社会と人間を見つめ、教育のあり方を問いつづけてきた教育研究者 大田堯（93）の姿を通して未来をみつめる映画です。



～生きるとは、学ぶとは——93歳、夢とあこがれを語る～

戦争体験を経て、さまざまな生活現場に生きる人たちとふれあう中ですすめてきた大田堯の教育研究は、「教え育てる」という既成の教育観を根底から覆すものでした。

生きるとは、学ぶとは…いのちの特徴（ちがう・かかわる・かわる）を大切に、子育てや労働にいたるまで、教育問題にとどまらず、未来をみつめるヒントが隠されています。

Story 無縁社会、不安と混乱の時代 私達は何を手がかりとして生きていくのだろう——

一兵卒として体験した戦争での生活に根ざした知恵と力を身につけた農民兵、漁民兵などの労働者との出会い。さまざまな職業の住民参加の中で取り組んだ“民衆の学校”づくりとその挫折。

自ら働く人たちのなかに飛び込んでいった共同学習—それは村の「不良青年」と生活を共にし、学ぶことを通して初めて心と心が通った学習体験。社会も教育の姿もガラリと変わった高度経済成長時代—人間の絆が断ち切られる孤独化現象。大田の人生は戦後と真正面から向かい合い、その中でつかんだ教育とは「教え育てる」という従来の教育観を根底から覆すものだった。そして大田はいま、自然の摂理にそった生命あるものの絆の再生をめざす。



<大田堯プロフィール>

教育研究者。東京大学名誉教授、都留文科大学名誉教授。日本子どもを守る会名誉会長。東京帝国大学文学部卒業。東京大学教育学部教授、日本子どもを守る会会長、都留文科大学学長、日本教育学会会長などを歴任。専攻は教育史、教育哲学。95歳の現在も、講演や執筆にエネルギーに取り組んでいる。1918年生まれ。広島県出身。

◆ スタッフ紹介

題名の「かすかな光へ」は谷川俊太郎の同名の詩から名づけられ、詩の朗読は詩人自ら行っている。音楽監督は多くの映画音楽をてがけている林光。監督は、高知の高校生の平和学習を記録した「ビキニの海は忘れない」（1990）、「渡り川」（1994）、夜間中学を記録した映画「こんばんは」（2003）など、青春と学びを描いてきた森康行。

製作・著作：ひとなるグループ

監督：森康行／音楽：林光／詩：「かすかな光へ」作・朗読 谷川俊太郎／ナレーション：山根基世／朗読：津嘉山正種ほか／撮影：西島房宏、前川光生ほか／編集：古賀陽一
2011年／84分／DV／4:3／カラー／日本／ドキュメンタリー